

令和2年度 第1回ナセ BA 運営協議会議事録

1. 開催日時 令和2年8月5日(水) 午後3時～午後5時

2. 開催場所 よねざわ市民ギャラリー第9展示室

3. 出席者

(委員)

我妻 仁(我妻社会保険労務士事務所・協議会会長)

北口 己津子(米沢女子短期大学・協議会副会長)

太田 和広(小学校校長 (関根小学校))

船山 恒(中学校校長 (第三中学校))

平塚 志信(高等学校長 (米沢東高等学校))

渡部 純子(塩井コミュニティーセンター)

佐藤 繁 (米沢市芸術文化協会)

田中 明子(米沢商工会議所)

白田 静雄(地元商店街)

小嶋 千夏(主婦)

(事務局)

公益財団法人米沢上杉文化振興財団

種村信次 (理事長)、岸順一 (副理事長兼図書館長)、菅野智幸 (常務理事兼事務局長)、青木昭博 (副館長)、石黒志保 (郷土資料担当)、遠藤朋香 (図書業務担当)、齊藤かおり (図書業務担当)、福石敏史 (図書業務担当)、川橋勇人 (総務企画担当)

4. 開会 (事務局)

5. あいさつ (理事長)

皆様にはナセ BA に対して日頃から思いを深く寄せていただいております、心から厚く御礼申し上げます。今、子どもたちの休みが少なくなっており、図書館も少し静かな印象を受ける。ナセ BA はコロナ問題の影響を大変受けており、かなりの制限を加えながら運営している。職員にも負荷をかけながら開館を維持している状況と言える。

本日は、昨年度の動きなどをご報告させていただいた上で、新生活様式の中での図書館サービスについて、ナセ BA 利用者増に向けた取組について、2つの課題についてご意見を頂戴したい。

6. 委嘱状交付

7. 委員自己紹介

8. 職員紹介

9. 会長および副会長選出

会長に我妻仁氏、副会長に北口己津子氏が選出された。

10. 議事

(1)報告

①令和元年度公益財団法人米沢上杉文化振興財団運営自己評価について(報告)

②令和2年度市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリーの主な事業について(報告)

(渡部委員) 所蔵資料の展示事業の中の「秋山庄太郎展」も中止ということか。

(事務局) 先人顕彰コーナーの「秋山庄太郎展」については、博物館で持っている写真と東京の山粧亭から原資料を郵送していただいて展示の準備をしており、開催を予定している。

(2)ご意見、ご提言

①新生活様式の中での図書館サービスについて(報告)

②ナセ BA 利用者増に向けた取り組みについて(報告)

(北口委員) 昨年度より委員となって図書館の業務量が多いことを知り、苦労や負担が相当あるように察する。ただ、利用の障壁に最大限配慮したサービスをされているという印象を受けた。

私には図書館が大好きな小学校6年生と3年生の子どもがおり、3月に行けなくなった時には時間はあるが行けないという事態にとっても悲しんでいた。いざ行けるようになると、40分の時間制限があった時は緊迫した雰囲気印象的で、職員から急かされるわけではないが、本をぶらぶら眺める楽しさは失われてしまった。ただ、サービス面では棚の並びが大きく変わり、休館中の努力が伺えた。また、特定の本を探していない場合は本が選びにくい、平置きですぐ手に取れるコーナーが子どもフロアにあり、大変助けられたし、工夫されていたと思う。

個人的には、入館時の名簿を取っていなかった点は図書館がプライバシーを守る観点に立っていることが分かり、安心してサービスを受けることができた。

今、おはなしかいは行われていないが、リモート等で行う予定はないのか。

(事務局) リモートでおはなしかいを行う案も出たが、著作権の問題をクリアしないと難しく、実施できていない。

おはなしかいは中止しており、サポーターの皆様からも残念だという声があがっている。夏休みこども図書館フェアを8月1日から開催している。今回は動画を作成しており、まずは第一弾として館内案内の前編をウェブ上にアップしている。チラシにも掲載しているが、現在予定しているのは、図書館案内やおはなしかいの動画配信。おはなしかいの動画では、職員のお子さんが小学校5年生の時に学校の授業で作成した紙芝居を読みたいと思っている。今回のフェアの目的が家で楽しめる内容とすることだったので、子ど

も自身がお話を作って家で楽しんでほしいという趣旨の動画配信を予定している。

(北口委員) 録画したものをオンラインで配信することは自動公衆送信権(著作権法第23条)に触れる。私も、授業で学生と読み聞かせをしており、参考としてお話したい。録画ではなくオンラインの状態、予め定められたメンバーかつ即時的で録画できない状態であれば、著作権がクリアできる。即時的であること、メンバーが限定的であることを強調すると、出版社によっては配慮いただけるようだ。学生はオリジナルものを作って読み聞かせを行ったので、著作権は問題ない。また、ナセBAの職員の絵心や遊び心を活かして著作権フリーの青空文庫から紙芝居を作るなど、既存のコンテンツを利用されてはどうか。

(事務局) オンラインの定められたメンバーとは、Zoomなどを使っているのか。

(北口委員) 今回はZoomを使った。IDを取得して、私が自分を招待した。読み聞かせではパソコンを使用し、会場ではノートパソコンをプロジェクタに映す一対一の状態だった。Zoomの場合は3人以上だと40分という時間制限がかかるそうだが、一対一だとリハーサルも含めて時間をかけて行うことができる。図書館内でのおはなしかいを予約制にすることで三密も防ぎ、限られたメンバーを対象として録画をせず即時的に行うという方法はどうか。

(渡部委員) 令和元年度の合計貸出数が443,142冊ということだが、貸出の多い分類は900番台や700番台か、どの分類の貸出が多いのか伺いたい。また、さらに貸出数を伸ばすために、どの分類を充実させて貸出数を伸ばしたいと考えているのか。

家読に望む本の種類、90番台を読ませたいなどの考えについてもお聞きしたい。

(事務局) 「令和2年度市立米沢図書館概要」22ページをご覧ください。「蔵書及び貸出の分類別蔵書構成」の「貸出比率」が、どの分類の貸出が多いのかを示す数値となる。郷土資料は特殊なため除外するが、一般書・児童書ともに、9類の文学がご指摘の通り一番多い。次いで多いのが5類の工学だが、料理の本や手芸の本といった家政学がこの分類に入っているの、その利用が多いと理解している。児童については自然科学系の読み物や図鑑が多いよううかがえる。

また、今後どの分野を重点的に伸ばしたいのかというご質問についてだが、特にどの分野に注力するかは明確に定めていない。最終的な選書については職員の合議を経るが、一般書は司書が各分類毎の選書担当を分けている。各自の分野における蔵書構成等を考え、それを基に利用を増やすにはどうすべきかといったことを思料しつつ、今後進めていきたい。

(渡部委員) 図書館側としては、ある分類の本を読んでもらいたいのでその分類を増やしていきたいという考えではなく、あくまで貸出が多い方に本の収集を増やしていくことを目指しているのか。

(事務局) 公共図書館なので貸出数が全てではない。満遍なく選書しながら、どういう本を皆さんが望んでいるのかということを理解し、必要な時に読んでいただく本を選書していかなくてはならない。ここをいっぱい増やせば良いということではない。ただ、子どもたちの成長に資するため、子ども向けの本を充実させたいという考えはある。

(渡部委員) コロナに関する蔵書を増やす考えはあるか。

(事務局) その時期で話題になっている、皆さんの関心が高い資料は当然増やす。例えば、持続可能な社会を作っていくなくてはならないという SDGs という考え方が登場しているが、SDGs を実現するにはどういった本が必要か、昨年度よりコーナーを作って収集するなど、今の時期に必要なもの、これからどんどん必要になってくるかもしれないもの、色々なことを考えながら満遍なく収集することが公共図書館としての役割だと思っている。

(佐藤委員) コロナの影響下にあっても特に良かったのは、資料整理・調査・収集の評価が高い点であった。貸出プラス、資料の充実が図書館に求められているが、この時期の評価の高さを考えると定期的にそういう作業をする計画も今後充分検討して行って、米沢図書館としての情報量を充実させ、レファレンスや検索などの利便性を上げていただけるとなお良いのではないかと感じた。

全体の利用については、40万冊の貸出という目標に対する評価が4.0で、昨年度の目標は達成されている。より多い利用は理想だが、最低限の目標達成をするという努力はすばらしい。長年続けていくことで利用者の定着と拡充に繋がっていくことを期待する。ギャラリーについてはやや減少傾向で評価も低かった。企画の内容や展示利用者の内容も影響すると思うが、どういった点が集客数を左右するのかを分析できれば今後の検討に繋がっていくのではないかと感じた。

コロナの影響下で利用される市民の方から実際に聞かれた、貸出や学習室などに関して多かった要望があればお聞きしたい。また、過去には夏場にこまやの活用があったが、近隣の方への影響や今後の地域との連携についてもお聞きしたい。

(事務局) コロナ禍での図書館に対する要望として特に多かったのは、学習室や閲覧席の利用者から利用時間を伸ばしてほしいという声だった。ただ、席数を減じて回転させ、色々な方に使っていただけるようにするには、現状を維持せざるを得ない。

こまやの活用についてだが、今は朝6時から朝市が開かれており、近隣の方が野菜を持ってきて売っている。また、以前は学生が来て色々なイベントを行っていたが、コロナの影響でできていない。こまやを活用して何かできないかと思っているが、来年度以降になってくるのではないか。

開館しているかといった電話も多かった。感染が怖いという高齢者がおり、一番人が少なく混んでいない時間帯は何時かといった問い合わせも多かった。

受付名簿については、市と協議し取らないことになった。入館制限や手洗いをきちんとお願いすることで対応している。

(佐藤委員) 今後、第2波第3波の懸念があるが、利用者の声を聞きながら最大限の図書館利用を提供していただきたいと願っている。ぜひご尽力よろしくお願したい。

(田中委員) 商工会議所の職員に、図書カードを持っているか、どれくらい利用しているか聞いて調べてきたのだが、30人そここの事業所で図書カードを持っている職員は半分位だった。その中でコアに図書館を利用しているという職員は2・3名しかおらず、一般社会人においては利用している人と利用していない人の二極化を個人的には感じた。利用していない方への利用促進については、広く皆さんに利用していただくための様々なPR方法等

を今後検討していけば、利用者数も今後もっと伸びるのではないかな。

今年の冬場の利用者数が伸びたのは、暖冬小雪の影響もあったのではないかな。米沢市民の方は特に車でないと出歩けないという方も多いようなので、そういったところも大きかったのではないかな。

運営方針の中の HP の改善について教えて頂きたい。実は、商工会議所の HP も当初は業者が作ったがんじがらめの HP で職員が情報を更新できず、数年前に職員でも簡単に更新ができるように大幅に改善した経緯がある。現在、図書館の HP については職員の中の委員会やグループがあり、その方たちが更新しているのか、ある程度業者の手が無いと更新が難しく改善に至っていないのか、そのあたりについて教えていただきたい。

(事務局)

HP を自在に操れる職員がなかなかいない。この館を立ち上げたときに業者にデザインしてもらった。更新は随時職員が行っているが、これまで大幅に HP を変えるのは難しかった。今回、コンピューターに関する知識・技能を持った補助職員が入職した。HP のデザインについてご意見があれば伺い、それを基にしながら HP 改善を考えていきたい。

利用者の二極化という話があったが、ビジネス支援ということも含めて、一般の社会人の方々がどうすればこの図書館を利用していただけなのかということをお聞きしたい。

(田中委員)

商工会議所では、中心市街地活性化協議会と連携しながら、中心市街地の活性化を図るためにはどうしたら良いか、何年も前から米沢市と一緒に協議している。中心市街地の事業所の経営支援や、ランチマップを作って中心市街地に来た方に図書館も利用してもらい、商店街のお店も利用していただいてお互いにウィンウィンの関係を持つための取り組みなども行っている。商工会議所の立場で言えば、会員である商店街の経営支援も行いながら、街の中に来ていただいた方に図書館も利用していただくようなソフト面での支援も今後何らかの形でできないかと思っている。

(白田委員)

お店をやっている一番大事だと思うのは働いている人。いかにその人たちが魅力を作るか、お客さんをひきつけることが一番大事なことだと思っているので、職員の皆さんはこれからも研修に励んでいただくのが一番良いと感じた。

先日、朝日新聞で安藤忠雄という建築家が自分のお金を使って図書館を作ったという記事を見た。土地は大阪府のものだが、上物は全部安藤氏の会社がお金を出して、子どもに対しての図書館を作ったという内容だった。コロナ禍で日本政府が多額の借金をしており、それを返していくのが今の子どもたち。社会がどうなっていて、これからどう生きるとかというのを教えてあげるのが図書館だと思っている。令和 2 年度の選書方針にもあるが、児童書に力を入れてもらいたい。ランチマップのスタンプラリーを今年も実施するが、ぜひ皆さんに商店街とナセ BA を使ってもらいたい。

(小嶋委員)

①の報告についてだが、私も二極化しているイメージがある。コアに使っている方と使わない方の大きなカテゴリーがある気がしており、それぞれに対して使ってもらうためのアクションが異なる。利用者がまた来なくなる図書館にするには、利用者満足度を上げることだと思う。地域で利用してくれる方にいかに寄り添ったサービスをするかが凄く大事だと思う。アンケートを実施したいとずっと言っているが、ぜひ毎年実施する仕組みを作ってもらいたい。広報よねざわでナセ BA のページもあるが、インターネットを使っ

た無料で取れるアンケートもあるので、ぜひ利用していない方への意見も拾えるような仕組みを作ってアンケートの実施から施策に繋げてもらいたい。高校生、親、年配者、ビジネスなど利用者の各グループで意見を吸い出して、グループの人達が図書館をどう良くしていきたいのか意見を拾える場を設けると、アンケートでは拾えない具体的な意見を聞き取れるのではないかと思う。非利用者については、どういった方が利用しておらず、なぜ利用していないのかを調べないといけない。日常的に働いている方は勤務中に来られないなど理由があると思うが、商工会議所の取組であればビジネス講座をナセ BA することでついでに図書館にも寄ってもらうなど、アプローチを変えると良いのではないか。

①の報告については、私もコロナ禍で子どもと図書館に行くことに心配があったが、色々な対策をされておりとても驚いた。これだけ頑張っていることをアピールしてもいいと思う。今は飲食店でも昆虫プロジェクトなど実施しているが、対策が目で見分かれるといいのではないか。

滞在時間を短くして貸出をするために、予約の受付と貸出のサービスをしていたとのことだが、ウェブ申込で図書館の本を事前に予約して取りに来られるサービスや、他の大学でもやっていたが送料を大学で持って図書宅配サービスを実施するなど来なくても本が受け取れる仕組みを作ってはどうか。(事務局注記：ウェブ上の予約申込サービスは通常時より実施中。)

利用者が少ない時間帯を聞かれる方がいたということだが、この時間帯は少ないからおすすめという案内をするといいのではないか。

東京都立図書館の HP で見つけたのだが、今だからできるこんなことというコンテンツで、家でもできる研究や、今こそ読みたいネットで読めるおすすめ作品として青空文庫を紹介したり、図書館に来なくても図書館のサービスを使って利用できるコンテンツがあっても面白いのではないか。HP を改善する際に考えてはどうかと思う。

多様な学びを提供する事業の中で色々な事業を予定されていたが、ぜひ Zoom などを利用して学びを止めないように、上手く工夫して自宅にいても講義が聞けるなどしてほしい。

(平塚委員) ②の報告についてだが、感染予防の対策をきちんととっていただいているが大変ありがたいと思っている。利用制限についてもありがたいことだと思う。利用制限の枠を外すと高校生などが多く、しかも長時間利用するようになり、マスクを取って会話する時間が増える懸念がある。それを防ぐ意味で、利用時間の制限は思い切り使いたいと思っている方からするとご不便を感じる面もあると思うが、感染の広がりを防ぎたいと考える側からすると大変ありがたい。

①の報告についてだが、駐車場の利用が自由にできるようになると来館者増に繋がるのではないか。ナセ BA の駐車場はそこにある駐車場の他にあるのか。

(事務局) まちなか駐車場は3時間、平和通り駐車場は1時間まで無料となっている。

(平塚委員) それなら十分なのかと思うが、商店街や大沼など空き店舗の駐車場を共有して使わせてもらえるようなことがあればいいのでは。

もう一つは、学校では探究型学習を進めようと考えている。生徒たちが自分たちなりにテーマを決めてそのテーマについて深く探究、研究し発表する学習だが、幅広く力を入れて行おうとすると学校だけのマンパワーでは足りなくなってくる。図書館の方からこういうテーマについてはお手伝いできるという情報を発信していただくと、学校としては助かる。古典籍古文書コレクションなど他の図書館にはない資料を使うことによってどういう研究ができるのかといったことなど、古文書類の利用者を増やすには研究する人を増やさないと利用する人は絶対に増えないと思う。こういう研究テーマなら本館にあるこういう古文書が役立つ、といったような情報を発信していただく、あるいは司書それぞれ得意の分野があると思うが、こういうテーマの研究であればお手伝いできるといった情報を流していただくと、生徒たちが研究テーマを考える時の手がかりとして活用し、ひいては利用者増につながっていくのではないかと。

(事務局)

当館の古文書古典籍については、デジタルライブラリー等で画像等を公開している。5年位前のことだが、当館に室町時代、500年前位の平家物語の貴重な写本がある。新潟大学教育学部附属新潟中学校の先生がその資料を見つけ、教科書に載っている平家物語と米沢本の平家物語の言葉が若干違うのを比較して、主人公の感情移入などをテーマに授業を行い有効利用していただいたことがあった。その授業を紹介した資料を米沢市教育委員会や中学校にお配りしたが、米沢市内での活用は無かった。宣伝の仕方や工夫が足りなかった面もあるかと思う。今後、そうした利用に向けた宣伝にも力を入れていければと思う。

(船山委員)

中高生の利用促進については、学校もコロナウィルスの対応で、特に市内の中学校は8月8日から16、17日頃までの9～10日間くらいしか夏休みがない。今年度は夏休みの利用では期待に沿えないが、読書感想画コンクールなどできる範囲での協力をしたい。

学校でも新生活様式ということで、感染しないように自分でコントロールすることを子どもたちに指導しているが、学校から出た時に本当にそれができる力が備わっているのかという視点が大事だと日頃から思っている。もし図書館を利用した際に、コロナ感染症対策という点で子どもたちの姿を見て、問題があったらいつでも学校に教えていただければ指導したい。

先日、中学校の教育活動に関する調査をした時に、市内の中学校7校全てで、朝読書の時間を設定して取り組んでいるという実態を知った。10～15分、自分で本に向かって黙々と読書をする時間を設け、学校でも読書に親しむ機会を設定している。きっかけを作っていくことが大事だと思う。家読の話もあったが、今後も家族で楽しむお勧めの本や推薦図書リストを作成していただきたい。小さいうちからそういう環境に触れていくことが読書好きにしていける、豊かな知識を得るための大事な取り組みだと思う。子どもたちが文字に触れる機会が少なくなっているという実感を持っている。新聞を購読していない家が増えているなど、文字に触れる機会が映像などから入ってくる部分が多くなっている。文字に触れることは大事な視点として学校教育では持っていたい。

最後に、利用状況についてだが、コロナの影響はあるものの確実に成果を上げており、取組の成果だと思い感心した。今後も中学校側として協力できるところはしていきたい。

(太田委員)

昨年度、岸館長が中心になって読書スタンプラリーのアイデアを出し、念入りに時間をかけて準備していただき、小学校としてありがたく思っていた。学校と図書館を繋ぎ、保護者に図書館への意識を向ける機会となり、非常にありがたかった。ぜひ今年度も少しでも継続して浸透していければ良いと考えている。小学校図書館部会でも2年連続で図書館職員から指導いただき、ブックトークや図書室運営について学び、学校と連携した取組をしていただき大変ありがたく思っている。

読書活動推進計画の家読については、自分の子どもが小学校の時に、カードを持ってきてお父さんかお母さんどちらかと同じ本を読んで感想を書いてみるという取組があったことを思い出した。子どもとどの本を読むかという場面では、お互いが興味を共有するものを選ぶことから始めて、書いてみると親子で違う感想を持つことを意外に感じるなど面白い取組だった。家読も図書館と連携していきたい。

小学校、中学校共にコロナウィルス感染防止に努めているが、小学校は給食の時に子どもたちに配膳をさせず先生を中心に配膳したり、子どもたちに消毒を念入りにさせるなど、考えられる全てのことをしていた。しかし、置賜保健所から伺った話だと、飛沫感染がほとんどで、空気の入替や通りを良くすることをメインに考えるべきで、自分の学校でも頑張っていたが机の消毒はさほど必要ないということ、フェイスシールドなども学校現場ではそんなに必要ないかもしれないというお話で、始めのイメージと少しずつ変わっている。保健所から指導いただき、山形の警戒レベルに合わせて冷静に対応していかなければと思った。

(我妻委員)

米沢市の書店がなくなってきており、雑誌など今すぐ読みたいと思った時に買えなくなった。電子書籍を手に入れたりしているが、コロナの時代の中でさらに公共図書館で電子書籍への歩みを踏み出す時がきたのではないかと個人的に思う。LibrariE(ライブラリエ)という電子図書館サービスの導入も進んできており、県内では東根市図書館も運用している。電子図書館と既存の図書の貸出サービスをどう融合するか、どうコンビネーションを組んでいくのかを考え、なかなか来館できない利用者に対しては電子図書館は非常に意義が大きいので、すぐにというわけではないが一步を踏み出す良いタイミングだと思うので検討をしていただきたい。それに合わせて、電子書籍を活用しながら、例えば東高をスタートとしてオンラインのビブリオバトルなどを実施するなど、新しい時代の中で若い人へ読書活動を推進できる取組をこの機会に検討していただきたい。

先ほどからの話や館長の運営方針にもあるように、やはり働きやすい職場や職員が元気な職場が図書館の活力を高めていくためのベースとなる。臨時休館時には掃除、整理など大変だったと思うが、職員が一緒になって色々な活動をされて、情報の共有化、意識の共通化ができたと思う。働きやすく、ゆったりと気持ちよく仕事に情熱を傾けるよりよい職場づくりをしていくためには、休館日が月1回というのは本当にそれでい

いのかという気がする。ナセ BA ができたときは、その前の米沢図書館の休館日よりもかなり減らして月 1 回ということでスタートされたが、利用者にとっては確かにいいのかもしれないが、やはり働きやすさや色々な情報共有をしてスタッフが次の新しい段階に行くには研修もしたり色々な勉強もしたりということを考えると、休館日が月 1 回で本当にいいのかという気もする。今すぐ解決できる問題ではないと思うが、来年度に向けて議論をスタートされてはどうか。

(事務局) 今休館日に何をしているかということ、特集を組んだり打ち合わせをしたりで終わってしまい、研修の時間は取れない。これまでは除籍や点検・整理など、サービス向上に繋がるものも思うにまかせず、今のお話は本当にありがたい。

10. 閉会

(理事長)

皆様から貴重なご意見を頂戴した。ビジネス支援の話が出たが、職員はビジネスの世界で生きていないので、ビジネスへの関心や知識が少なく、なかなかできないのかと思う。ただ、地域で生きて行く、新しい社会になった時にどう生きるか、そういうテーマの立て方をすると図書館としてもやりようがあると思う。大きく時代が変化する時にどう生きるかというのは、委員の皆さんを含め皆にとって極めて大事な新たなテーマだと思う。時間がかかることだが考えていきたい。

最後にお話をいただいた休館日については、交代勤務でまとまった時間が取れない職員の様子を見ている。休館日を増やすことによって皆様方のご要望に応じていく場面が取れると思うので、来年以降のことを考えた時に、要請していくことが大切だと改めて考えさせていただいた。色々なご意見を頂戴したので、これから取りまとめをしながら活かしていきたい。皆様方に色々な意見を頂戴し厚く御礼申し上げます。